

「体育」（1 学年）指導略案

単元・題材名	ソフトボール	生徒	1 学年全員
		場 所	グラウンド
日 時	平成 2 8 年 6 月 3 0 日（木） 5・6 校時	指導者	MT：高山 愛望 ST：後藤 倫弘、田中 龍右エ門 小林 和幸、村瀬 はるな （中島 朋之）
単元の全体目標	・ 投げる、捕る、打つなどの基礎技術を習得することができる。 ・ 全員で協力してゲームをすることができる。		
本時の目標	・ ボールを投げたり、捕ったりしてゲームに参加することができる。 ・ 仲間と声をかけ合い、運動を行うことができる。		

過程時間	学習活動	生徒の活動	教師の活動	教材・教具
導入 2 0 分	挨拶	○代表者の号令に合わせて、挨拶をする。	○代表者を指名し、挨拶を促す。	
	前時の復習	○前時の学習活動を復習する。 ・ ボール投げ ・ キャッチボール ・ ゴロ捕球キャッチボール ・ ノック（男子）	○前時の学習を口頭で伝え、振り返りを行う。	
	本時の学習活動	○本時の学習活動を知る。 ・ キャッチボール ・ ゴロ捕球キャッチボール ・ バッティング練習 ・ 作戦会議（練習含む） ・ ゲーム ・ チームで振り返り	○本時の学習活動を提示する。 ＜協同学習の要素や配慮事項＞ ・ よく聞いて、分からないことや確かめたいことを質問することができる。（④）	
	本時の目標	○本時の目標を確認する。 ・ ボールを投げたり、捕ったりしてゲームに参加することができる。 ・ 仲間と声をかけ合い、運動を行うことができる。	○本時の目標を提示する。 ＜協同学習の要素や配慮事項＞ ・ 個人に役割があることを提示し、協力することが必要な種目であることを説明する。（①、③、配慮③）	
	準備運動	○準備運動をする。 ・ グラウンド 1 周 ・ 体操	○しっかり準備運動をしているか確認する。していない生徒には、言葉がけを行う。	

展開 70分	キャッチボール	○胸元へのキャッチボールをする。 ・ 道具の準備 ・ ペアとの声かけ ・ キャッチボール	○道具を準備するように促す。 ○キャッチボールするときのポイントを伝える。 <協同学習の要素や配慮事項> ・ ボールを準備するときやキャッチボールでボールを投げるとき、ペアで声をかけ合うように促す。(②)	グローブ ソフトB
	男女別での練習	○男女に分かれ、ゴロ捕球キャッチボール、バッティングをする。 ・ 男子 バッティング→ゴロ捕球 ・ 女子 ゴロ捕球→バッティング	○バッティングは野球グラウンド、ゴロ捕球は校舎側で行うように指導する。 ・ バッティング 後藤T、田中T（中島T） ・ ゴロ捕球 高山、小林T ※村瀬Tは流動的に移動し、指導を行う。 <協同学習の要素や配慮事項> ○バッティング ・ バッティングの順番を待っている生徒は、ボール拾いを行い、送球を行わせる。(③) ○ゴロ捕球 ・ 人や自分が失敗したり、できなかったりしたときには教え合う場面を設定する。(②)	バット
	作戦会議および練習	○チームに分かれ、作戦会議（練習）をする。 ・ キャプテンを決める。 ・ ピッチャー・キャッチャーなどの守備位置を決める。 ・ チームの打順を決め、ワークシートに記入する。 ・ 必要な練習を行う。	○Aチームはデモレーン側、Bチームは校舎側に集まり、作戦会議、練習を行うように指示する。 ○作戦会議で話し合う内容や練習でのルールを伝える。 ○ゲームを行うため、そのルールを説明し、作戦を立てるように促す。 <協同学習の要素や配慮事項> ○作戦会議 ・ 自分の意見を発表したり、みんなの考えを聞くなどの話し合いの場を設定する。(②、配慮⑫) ○練習 ・ 個人の役割を明確にし、責任感を持たせる。(③) ・ 人や自分が失敗したり、できなかったりしたときには、声をかけ合うように促す。(②)	ワークシート 下敷き ベン
ゲーム		○ゲームをする。 ・ 自分の役割を理解して、ゲームに参加する。 ・ 仲間と声をかけ合い、勝利を目指す。	○ゲームでのルールを再確認する。 ○ケガをしないように安全面で気を付けなければいけないことを伝える。 ○ゲーム中の審判や監督を行う。 <協同学習の要素や配慮事項> ○ゲーム中 ・ 仲間のプレイに対し、教師が声をかけるなど見本を示し、生徒同士でも行うように促す。(配慮☆) ・ 個人の役割を明確にし、責任感を持たせる。(③)	グローブ ソフトB バッド 得点板
				(1回ごとの得点ではなく、合計点のみ提示)

	チームでの振り返り	○ゲームをチームで振り返る。 ・守備位置や打順など工夫できる点を考える。 ・チームの良かったところ、悪かったところを考え、ワークシートにまとめる。	○チームごとに振り返るように指示し、ワークシートにまとめさせる。 ＜協同学習の要素や配慮事項＞ ○振り返り ・自分の意見を発表したり、みんなの考えを聞くなどの話し合いの場を設定する。 (②、⑤、配慮⑫) ○まとめ ・まとまった考えをワークシートに記録させる。(配慮⑬)	ワークシート 下敷き ペン
整理 10分	整理体操 まとめ 次回の予告 挨拶	○整理体操をする。 ○本時の講評を聞く。 ○次回の学習活動を知る。 ○代表者の号令に合わせて、挨拶をする。	○しっかり整理体操をしているか確認する。していない生徒には、言葉かけを行う。 ○教師による評価（個別・全体） ○次回の予告を行う。 ・7月7日（木）水泳が開始する。忘れ物がないように、事前に確認すること。 ○代表者を指名し、挨拶を促す。	

※ (①) … 互恵的な相互依存関係 (②) … 対面的なやり取り (③) … 個人としての責任
 (④) … 協同学習スキル (⑤) … チームの振り返り

※ (配慮①～⑪) … 配慮事項については、マニュアルP8～10参照。

※ (配慮☆) … オリジナルの配慮事項。

ゲームのルール

- ・ゲームは長くとも14：15までとする。
- ・1チーム16名とするが、欠席者がいる場合は教師の方で人数を調整する。
- ・スリーアウト交代制で行う。
- ・投げる、捕るに重点を置くため、盗塁等は禁止とする。

授業参観者アンケート

授業者：高山 愛望
協同学習（各要素）についての評価
①互恵的な相互依存関係 ・ソフトボールという競技はチームで行われるため、個々に役割があり、協力してプレーをすることが何よりも大切であることを主体とし、ゲーム中だけではなく、ウォーミングアップやバッティングの待ち時間の中などに協同学習の要素が組み込まれていて、授業の設定として良かったと思います。実際にゲームの中で生徒達が役割を果たし、協力しながらゲームに挑むところを見てみたいと思いました。 ・導入時の目標を提示する場面では、どのような協力ができるかを考えさせると良かったです。
②対面的なやりとり ・キャッチボールの配慮で、「声かけをする」とあったが、生徒同士で取れないところへ投げたときに、すぐに謝り、ボールを投げる強さの指示を出し合うなど良かったです。 ・キャッチボールでの「対面的なやりとり」については一定の効果があるのではないかと考えられます。（ペア同士の自然な声の掛け合いなど） ・キャッチボールでは、それぞれのペアがお互いに掛け声や会話をする場面が見られてとても良かったと思います。 ・楽しく授業に参加させる雰囲気があるからこそ、援助し合ったり、教え合ったりする場面が見られました。協力することや連携することを学ぶ機会になっていました。 ・ペアでキャッチボールを行う際、相手に対して「いくよ!」「どんまい」など声を掛けている様子が見られました。
③個人としての責任 ・ソフトボールという学習内容の設定は難しいをと思いますが、キャッチボールを3，4人のグループで行い、1人の暴投やキャッチミスがチームの迷惑になるような練習を行っても良いと思いました。 ・ソフトボールは個々の役割を果たしつつ、チームで協力してプレーをすることが必要不可欠なため、協同学習の要素が含みやすく参観していて分かりやすかったです。どうしても得意な生徒と苦手な生徒が出てくるとと思いますので自分だったら個々の活躍とチームプレーでの活躍の場をどのように作るのかなど考えていかなければならないと思いました。 ・バッティング練習では打った球が同じ生徒に飛び、限られた生徒だけが動いている印象がありました。声を掛け合ってボールを廻させるなどしても良かったです。
④協同学習スキル ・導入での本時の学習活動の説明では、前回の続きということで生徒も見通しをもっており、聞くという協同学習スキルを引き出すのは難しかったと思います。あえて説明を少なくし、生徒に分からないことを質問させる展開でも良かったと思います。 ・MTとSTの役割を明確にして、小グループの活動時間を確保し、全体指導に入っても良かったのではないかと思います。良いプレーから学び、自分のプレーに生かすように促すことができたと思います。
⑤チームの振り返り

協同学習全体を通して

- ・展開のバッティングに関しての協同学習について、特定の生徒がボールに触れていました。状況によっては教師がノックを行っても良いと感じました。
- ・ゴロ捕球について2人→3人→4人と人数を増やしていく形にすると、捕球する意欲が上がるのではと感じました。(チーム対抗戦にするなど)

授業を通しての感想（良かったところ・改善点など）

- ・指導案の中で細かく時間設定を行ったほうが授業を行う上で見通しをもちやすいと感じました。
- ・安全面での配慮がもう少しあったほうが良いと思いました。キャッチボールで投げたボールがどこに飛んでいくかわからないので、指導者が生徒を把握するのが大変になってしましますが、グラウンドの広さを生かして練習を行うと良いと思いました。
- ・前時でどこまでソフトボールの練習を行ったのかは分かりませんが、練習時間を減らしても良いように思いました。
- ・運動が得意な生徒が持て余している感じが伝わってきました。得意な生徒は教える側に回るなどしても面白いのと、協同学習の要素に繋げることができると思いました。
- ・生徒が意欲的に参加していて良かったです。
- ・生徒全体に指示を出すときは、集中をさせて聞かせるために座らせて説明を行ったほうが良いです。
- ・キャッチボール時の注意点の説明は行ったが、やってほしいことが十分に伝わっていない様子でした。
- ・指導者が指示を出すときに、「～と思うので」が多かったです。
- ・MTとSTが授業中の確認を増やした方が良かったです。
- ・体育は危険が伴う授業なので、導入部分での注意喚起を十分に行うべきです。
- ・三角でキャッチボールをするときに、投げ合う生徒の延長線上に生徒が入らないようにして、入る場合は危険ではないところまでグループを離します。
- ・ベースがあった方が良いです。
- ・キャッチボールで生徒同士は褒め合う場面が見られました。
- ・男子がバッティング練習を行う場所で、生徒の守る場所（マウンドの後ろは危険）（サッカーゴールが危ない）が気になりました。
- ・女子は生徒の実態に合わせてポジションに注意しないと危険です。
- ・計画と実際の授業内容に時間のズレがありすぎるのではと感じました。この授業のメインは作戦会議をして、ゲームをすることだと指導案を見て思ったので、それ自体行えていませんでした。
- ・協同学習の5つの要素よりも、まずは適切な時間配分の設定が必要です。
- ・学習全体をとおして生徒が皆生き生き楽しそうに活動しており良かったと思います。
- ・人数が多く一人一人やもしくはペア、チームの動きを考え協同学習を取り入れるのは難しかったと思います。サブの先生とねらいをどこにするのか事前に打ち合わせが大切だと改めて感じました。
- ・キャッチボールやバッティングの注意点は繰り返し説明しても良かったと思います。
- ・少し内容が盛りだくさんだったと思います。練習を時間で区切っても良かったと思います。
- ・単元の最後なのでゲームをさせてあげたかったです。
- ・もう少し学習活動を絞って内容を組み立てるとゲームまで行けたと思います。
- ・ソフトボールが得意な生徒も、そうでない生徒も元気に取り組んでいました。指導者も声がよく出ていて、全体として生徒の動きは良かったと思います。

- ・最初の準備運動の際、すごく声が出ていて気持ち良かったです。声を出すことで今から始まる授業に対して意欲が高まったと思います。指導者の声も聞き取りやすかったです。
- ・男子のバッティングの際、同じ人がボールをキャッチすることが多かったように見えたので、なるべく多くの生徒がキャッチできるよう場所をローテーションするなどしてみても良いかと思います。また、指導者はバッティングする生徒やキャッチする生徒に「ナイスボール！」で打ったときの声かけとキャッチしたときの声かけを教えるとより盛り上がり、意欲につながるかと思いました。
- ・略案でも指導案の作成の基本として例えば、3（時間）／4（時間）など時間数を記入した方が良いです。
- ・笛をもっと大きく吹くといいと思います。音に力がないと説得力のある授業展開にならないからです。
- ・体操中に生徒に話しかけない方がいいです。MTは全体掌握できる位置に立つといいです。STにお願いして巡回すると良いと思います。
- ・全体掌握はMT。個別の指導はSTにお願いした方が良いと思います。どこを見てもらう、どの生徒に注意を払うなど打ち合わせが大事ではないでしょうか。
- ・給水後にダラダラさせずにすぐに活動に戻らせると良いです。
- ・脱いだジャージは名前を上にしてきちんと畳ませる。どこに置くかも決めた方が良いです。
- ・バッティング練習の待ち時間が長すぎました。打球が同じ方向に飛び、一定の生徒しか活動していない状態になりました。列を作り、順番に捕球させても良かったのではないのでしょうか。
- ・グローブの使い方の指導が必要です。開いて捕る、フライとゴロでは向きが違います。
- ・道具の使い方の指導をするときは、一度集合させて改善点を指示してから場所に戻らせると良いです。プレーしながら注意しても、生徒は夢中になっているので聞けないです。
- ・指導案と実際の授業展開に違いがありました。公開授業ではもっと丁寧に授業展開をすると良いです。体育は規律が求められる教科だと思うので、注意深く観察することも必要ではないのでしょうか。

【全員授業研究 振り返りレポート】

- ① 協同学習の要素を取り入れた授業についての感想。
- ② 授業全般を通して、良かったところ、改善すべきところ。

単元・題材名	体育「ソフトボール」	生徒	1年全生徒32名
		場所	グラウンド
日時	平成28年6月30日(木)5・6校時	授業者	高山 愛望
今回の学習では、「キャッチボール(②対面的なやり取り)」、「作戦会議(①互恵的な相互依存関係)」、「ゲーム(③個人としての責任)」、「振り返り(⑤チームとしての振り返り)」と協同学習の要素を多く授業に取り入れた。しかし、ティーバッティングの練習時間を長く設けてしまったために、「作戦会議」以降の学習を行うことができなかった。STとの打ち合わせを念入りに行うことやMTとしての指導方針を明確にSTに伝えることを怠ってしまったことが原因だと考えている。今後の授業でもこういったことをしてしまうと、安全管理が疎かになり、怪我等の事故にもつながってしまうため、徹底してSTへの情報発信を行っていく。 授業を行う中で、「キャッチボール」の時間が長くなってしまったこと、「ゲーム」の時間を確保できなかったことで生徒の意欲も低下させてしまった。生徒の運動能力等の実態を考慮し、授業案の作成やキャッチボール以外の基本的な練習を検討すべきであった。 基礎基本が定着させられていない中で、ゲームを設定するなど、計画段階でのミスが目立ってしまった授業になった。もう少し、段階を踏んだ授業を計画する必要がある。また単元としても短く組んでしまったため、授業時数を多く確保していく必要がある。 生徒同士の協力などについては、授業ごとに増やすことができている。本時も、道具の準備や後片付け(④協同学習スキル)、ペアでのキャッチボールに関しては、体育祭での練習や前回の学習でも行っていることから、教師からの言葉がけが少なくとも、仲間同士で声を掛け合うことができる状況になってきた。今後も引き続き、話し合いの場やペアで行う活動を多く設定することで習慣化するようにしていこうと思う。 参観された先生方から、全体指導をする際の助言をいただいた。笛の活用の仕方が曖昧で、メリハリが少ない授業となっている。そのため、笛の活用の仕方や指示の仕方についての課題が見つかった。今後の授業で改善していきたい。また、協同学習とは関係ないが、私自身の専門性に課題があるため、生徒にとって充実した学習活動になっていないことも課題となっている。ベテランの先生方の授業を見せていただいたり、ベテランの先生方やSTに入られている先生方から助言をいただきながら、授業の計画や指導を行っていききたい。			

「体育」（2 学年）指導略案

単元・題材名	球技 サッカー	生徒	2 学年全員
		場 所	グラウンド（雨天時体育館）
日 時	平成 2 8 年 8 月 3 0 日（火） 5・6 校時（1 3：0 0～1 4：4 0）	指導者	MT：山本 拓郎 ST：山柿 紘子 鐘ヶ江 真知 金子 亘喜 藤倉 雄一（山木 謙）
単元の全体目標	・パス、ドリブル、シュートなどの基礎的な技術を習得する。 ・ルールを理解して試合に取り組む。		
本時の目標	・基礎的な動作を（パス、ドリブル、シュート）することができる。 ・ミニゲームを通して、学んだ技術を生かすことができる。		

過程時間	学習活動	生徒の活動	教師の活動	教材・教具
導入 1 5 分	挨拶 本時の確認 準備運動	○指名された生徒は挨拶をする。 ○今日の授業の内容を確認する。 ○体育委員中心に体操 ○体操終了後ランニング	○挨拶する生徒を指名する。 ○今日の授業の内容を説明する。 ○STは必要な道具等の準備を行う。	ボール コーン
展開 前半 30 休憩 10 後半 35	前時の復習 ボールの扱い ドリブル練習 パス練習	○前回行った内容の確認 ○ボールを足裏で扱えるようにする。 ○コーンを避けながらドリブルをする。 ○2 人 1 組でパス練習 ①その場でパス練習 ②動きながらパス練習 ③3 対 1 の鳥かご	○前回どのようなことを行ったのかを何問か尋ねる。 <協同学習の要素や配慮事項> ・課題を解決するために、教え合ったり、助け合ったりして良いことを確認する。（配慮②） ○口頭で説明した後、質問を受け付ける。 <協同学習の要素や配慮事項> ・同じ学習課題の設定と構成を単元の中で繰り返し、徐々に学習内容の量と質を高めていく。（配慮⑧） ○口頭で説明した後、見本を示す。 <協同学習の要素や配慮事項> ・同じ学習課題の設定と構成を単元の中で繰り返し、徐々に学習内容の量と質を高めていく。（配慮⑧） ○口頭で説明した後、見本を示す。 ○ボールの蹴り方を確認する。 ○相手と意思の疎通ができているか。 <協同学習の要素や配慮事項> ・同じ学習課題の設定と構成を単元の中で繰り返し、徐々に学習内容の量と質を高めていく。（配慮⑧）	ボール コーン ビブス

	水分補給・休憩	○水分補給・休憩をする。		
	シュート練習	○シュート練習 ①指導者からパスをもらってシュート	○口頭で説明した後、見本を示す。 ＜協同学習の要素や配慮事項＞ ・徐々に学習内容の量と質を高めていく。 (配慮⑧)	
	ミニゲーム	○ミニゲーム ①1対1 ②3対3 (5分×2) ③3対3終了後、作戦振り返り・分析	○1対1では、自分でどのように相手を突破していくのかを確認する。 ○3対3では、周囲の仲間を生かせることができるか。 ○グループ内で作戦を考え、それを実行し、最後に振り返りと分析を行う。 ＜協同学習の要素や配慮事項＞ ・チーム内で協力し活動する。(①) ・仲間同士で話し合いを通して、共通理解の中で活動する。(②) ・自分の役割を把握し、活動に努める。(③) ・互いの意見等を認めながら調整・分析をする。(④) ・チーム内の仲間関係に常に注意を払っておく。(配慮⑥) ・チームに同調することが強制されないように注意を払う。(配慮⑦)	ビブス ボード シート
整理 10分	片づけ 整理体操 本時の振り返り	○全員で道具を片づける。 ○体育委員中心に体操をする。 ○数名の生徒に、ワークシートでの分析について発表する。	○道具を片づけるように促す。 ○3対3でのゲームについて、自分たちが立てた作戦と結果、分析について発表してもらう。 ＜協同学習の要素や配慮事項＞ ・仲間同士で議論したり、教え合ったことを発表する。(②) ・チーム内で分析してどのような結果になったのかを確認する。(⑤)	シート
	次時の確認	○次回の授業の内容を確認する。	○次回の授業について説明する。	
	挨拶	○指名された生徒は挨拶をする。	○挨拶をする生徒を指名する。	

※ (①) … 互恵的な相互依存関係 、 (②) … 対面的なやり取り 、 (③) … 個人としての責任

(④) … 協同学習スキル (⑤) … チームの振り返り

※ (配慮①～⑪) … 配慮事項については、マニュアルP8～10参照。

※ (配慮☆) … オリジナルの配慮事項。

※なお、雨天時体育館でサッカーを行います。上記の略案と内容が変更になる場合がありますので、御承知置きください。

授業参観者アンケート

授業者：山本 拓郎
協同学習（各要素）についての評価
①互恵的な相互依存関係 ・基礎練習の場面では学年全体で同じ目的や目標に取り組むことができていたので良かったと思います。
②対面的なやりとり ・ゲームだけでなく、練習中も生徒同士で声を掛け合いながら行われていました。特に、シュート練習時に「ナイスシュート！」という声が多く聞こえました。 ・『ボールの扱い』の中で、個での活動の中でも生徒同士の関わりが生まれていました。 ・ミニゲーム前のグループで作戦を考えているときに、教師がグルーピングを上手く組んでおり、話し合いの活動がよく行われていました。
③個人としての責任 ・練習時、試合時と自分がやらなければならないことが明確になっており生徒が動きやすい活動となっていました。 ・「個人としての責任」として、準備のときに一生懸命走ってランニングコーンを取りに行っている姿はよく指導されていると思いました。
④協同学習スキル ・④については、①と同様だがグルーピングが良く、生徒主体の活動となっていました。 ・試合に向けてのミーティングの場面では、積極的な生徒が話している事が多く、お客さん状態の生徒が何名かいました。（配慮⑥⑦） ・前時の内容確認では、ほとんど忘れていることを覚えている生徒が挙手で発表し確認し合うのは良いと思いました。（配慮②） ・積極的に動く場面は良く見られましたが、生徒によっては指導者に確認すべき部分を独断で判断し、行動している場面が見られました。 ・生徒が主体的に取り組む場面が多く見られ、良かったです。特に、準備、片付けでは目立っていました。（率先して動く生徒の様子を見て、取り入れている生徒も多かったです。） ・生徒同士で、声を掛け合ったり「ナイスシュート」など励まし合っている様子が見れて良かったです。
⑤チームの振り返り ・⑤については、振り返り時にしっかりと行われており良かったです。 ・振り返りのレポートは良かったです。放課後にも、サッカーの反省会しようと学科を問わず声を掛け合って集まっていたので、生徒たち主体で授業を行ったからこそその生徒の言葉だったと思います。 ・時間不足で最後に振り返りをする時間がなく、ワークシートはMTに提出する形で終わりましたが、この後これをどうするかを伝えることが必要でした。
協同学習全体を通して ・試合前、試合後に行うチームごとのミーティングでは、それぞれの課題を出し合いチームとしての共通の認識を持つことができていて良かったと思います。どうしても、チームで意見を出す人が決まってくる印象があったので、もう少し全員の意見を聞けるような仕組みがあればより良いと感じました。 ・学習指導案に「協同学習の要素や配慮事項」が明記されていて、どのようなことに留意して授業を展開

しようとしているのかが分かりやすく、良かったです。

- ・ミニゲーム前の作戦会議や実際のミニゲームでは、互恵的な相互関係（チーム内の協力）、対面的なやりとり（話し合いをして共通理解の中で活動する）、個人としての責任（自分の役割を把握し活動する）、協同学習スキル（互いの意見等を認めながら調整・分析する）は、生徒の活動の中で実際に見られており、日頃の蓄積が発揮されていました。
- ・ミニゲームの作戦会議の場面で、指導案に示されている「協同学習の要素や配慮事項」は授業場面では教師の働きかけの中には具体的な活動としては明確ではありませんでした。作戦会議を開くときに、具体的にどういうことに留意するのかをあらかじめ模造紙等を書いておいて提示するなどの効率的な工夫があると、さらに活動が深まったと思います。
- ・作戦会議の際に使用するワークシートには、手がかりとなる内容があって良かったのですが、S Tが巡回して必要に応じて助言するなどの話し合いを促進する手立てが、もっとあるとよかったです。
- ・体育科の授業で協同学習に取り組んでおり、さらに一步掘り下げた授業展開の工夫を行っていくと、今後はより一層深まると思います。

授業を通しての感想（良かったところ・改善点など）

- ・フットサルのボールが足りないのでは仕方ないとは思いますが、生徒によって使うボールにばらつきが見られたため、ボールについて何かしらの説明や練習の変更があっても良かったかもと感じました。
- ・全体的に楽しそうにしている生徒が多く、雰囲気の良い授業を作りあげている部分が良いと感じました。
- ・授業開始時に「ボールに触れる、触る」という目標を生徒に明確に伝えており良かったです。
- ・MTの生徒への指示が的確で生徒は動きやすかったと思います。
- ・展開の『ボールの扱い』⇒『ドリブル練習』の流れで、生徒に「どう抜くのか」ということを考えさせてからドリブル練習に入り、ドリブルの意義を考えさせることができていました。
- ・瞬時のグルーピングが良かったです。
- ・MTがS T任せにならず、授業者としての責任を果たしていました。
- ・授業の開始時に「ボールをドンドンつかない」、「できるだけ蹴ってボールを浮かせない」というルールがあると良いのではないかと感じました。
- ・グルーピングが的確でした。
- ・片付けや準備など、積極的に活動している生徒が多く見られた。体育の授業ではそれがしっかりと定着しているのだなという印象を受けました。
- ・活動場面で生徒からよく声が出ており、良かったです。
- ・体育の授業としては、活動量が保障されており、テンポ良く進められていましたが、後半になると時間不足でした。
- ・生徒に説明をする際には必ず整列させる、座らせる、手にボールを持たせないなどの鉄則を踏まえる必要があります。何名かの生徒がボールを手で持って動かしていたり、足で前後に転がしていたりする中で、MTが説明することは適切ではありません。規律ある学習態度を育てることは、体育の授業を通した集団行動や社会性を育てることにつながります。
- ・二人一組でパス練習では、相手が取りやすいパスを送ることが活動の目的であるはずですが、好き勝手に蹴っている生徒がいましたが、指導されていませんでした。
- ・ミニゲームの組み分けのとき、MTに呼ばれて整列している生徒の中には、足で蹴り合うまねをしている生徒がいましたが、注意・指導がされていませんでした。S Tから指導が行われてしかるべきでした。

- ・ミニゲームで観戦・応援するチームの待機場所を徹底させる必要があります。ゲームの途中で移動させましたが、移動後にゲームを開始した方がよいです。
- ・13：20位まで生徒がジャージの片足だけめくって授業を受けていたので、早い段階でS Tが気づいて言ってあげると良かったかなと思いました。
- ・準備運動のランニングに使用するコーン1箇所にゴムがついていなかったです。（体力づくり部会が整理するものだと思うが、授業で使う物はそろった物を使ったほうが良いと思いました。）
- ・ボールを足裏で扱えるようにする場面で、運動能力の高い生徒が壁にかなり強く蹴っていて、ある程度の規制（例えば今は足裏だけで蹴ったりしないようにするなどの）がないと危険かなと思いました。

【全員授業研究 振り返りレポート】

- ① 協同学習の要素を取り入れた授業についての感想。
- ② 授業全般を通して、良かったところ、改善すべきところ。

単元・題材名	体育「球技・サッカー」	生 徒	2 学年
		場 所	体育館
日 時	平成 2 8 年 8 月 3 0 日 (火) 5 ～ 6 校時	授 業 者	山本 拓郎

①協同学習の要素を取り入れた授業についての感想

1 互恵的な相互依存関係

- ・基礎的な練習を学年全体で行うことにより、全員で統一した目的の基礎学習を行うことができた。

2 対面的なやりとり

- ・ボールの扱いを取り入れる事で生徒同士の関わりを持つことができた、また、試合前にもグルーピングをしておくことで、円滑に話し合いを進めることができた。
- ・集団競技の大切さを伝えていくことで、練習の時点からお互いに称賛しあう様子が見られた。

3 個人としての責任

- ・道具の準備、整理整頓を年度初めが続けていくことで、準備の合図をするだけで生徒が自主的に動くことができた。

4 協同学習スキル

- ・生徒主体で話し合いを進めていくことができていたが、積極的な生徒・消極的な生徒とそれぞれいるため、消極的な生徒も発言できるような話し合いの進め方を考えていく必要があると感じた。

5 チームの振り返り

- ・振り返りを設けることで、次回で改善すべき所、より突き詰めていく所が明確になった。また、生徒間で放課後残って確認するなど自主的な動きも見られたため生徒主体で進められたのではないと思う。

②授業全般を通して、良かったところ、改善すべきところ

○良かったところ

- ・運動が苦手な生徒でもボールに触れる機会を多く設定することができた。
- ・ある程度サッカーに必要な技能を展開の流れで行うことができた。
- ・生徒同士で話し合ったり、分析する時間を設け、より深い話し合いをすることができた。

○改善すべきところ

- ・細かなルールの設定（整列の際のルール等）が曖昧だったため、徹底していく必要がある。
- ・体育としての運動量がある程度確保するために、様々な活動を短時間で飽きがこないように設定したが、後半時間が足りなくなってしまったこともあり、内容を精査していく必要がある。
- ・生徒同士の話し合いをする場をその時に設定してしまったので、生徒が移動するまでに時間がかかってしまった。今後は、生徒の安全面を配慮して移動が終わってから活動に移していく。
- ・指示された内容とは違う行動をとっている生徒もいたが、そこへの指導も不十分であった。